

お知らせ



□第 22 回未来をのぞく住宅展  
ASJ 庄内スタジオ  
出羽庄内国際村  
山形県鶴岡市伊勢原町 8 番 32 号  
3/20 (日) 10:00 ~ 18:00 入場無料  
3/21 (月) 10:00 ~ 18:00 入場無料

詳しくはこちらをご覧ください。

□第 36 回未来をのぞく住宅展  
ASJ 秋田スタジオ  
秋田アトリオン B1F・イベント広場  
秋田県秋田市中通 2-3-8  
3/26 (土) 11:00 ~ 18:00 入場無料  
3/27 (日) 10:00 ~ 18:00 入場無料

詳しくはこちらをご覧ください。

イベント開催地、およびその近郊の方、是非お出でいただき、お声を掛けてください。



ニュースレター  
「建築家の日常・非日常」  
発行責任者：加藤 一成

株式会社 加藤一成建築設計事務所  
仙台オフィス  
TEL : 022-739-8931 FAX : 022-739-8932  
秋田オフィス  
TEL : 018-831-4315 FAX : 018-831-4316  
HP : <http://www.issei-design.com/>  
Blog : <http://www.issei-design.com/blog/>  
Mail : [info@issei-design.com](mailto:info@issei-design.com)



vol.108 にちなみ、国道 108 号線です。先日久しぶりに通ってみました。仙秋鬼首トンネル。ここから始まるトンネルを何本か通ると宮城県です。この道は四季の風景が、その時々とても綺麗です。



「YH-House」  
アイランド型のオープンキッチン。背面の収納棚は使い勝手やインテリアに合わせた造作タイプの収納棚。キッチン左手の壁はコルクボード張り、様々な用紙やメモをピンナップ可能である。



「木ノ下の住宅」  
壁付タイプのキッチンに、現場でカウンターや全面収納棚を造作で付加している。背面は引戸付の収納になっており、食器や食材などが相当量納まり、引戸を開めることによりスッキリと見える。



「光庭のある家」  
ペニンシュラ型のオープンキッチン。背面収納はインテリアに合わせた壁付の造作タイプの収納棚になっており、横長のスリット状の開口部を設けることにより、玄関ホールを通して西からの陽を入れる。



「北上白の平屋」  
壁付タイプのコンパクトな L 型キッチン。限られたスペースを有効活用が可能。レトロな趣の置き型収納棚と、大理石天板を埋め込んだ作業台は本工事で製作した。床はテラコッタ調タイル張り。



「滝沢黒の平屋」  
ペニンシュラ型のステンレスキッチン。背面にスリット状の開口部があり、収納棚等は既製品を購入して設置する予定。奥にパントリーがあり、買い置きの食材や使用頻度の低い食器等を収める。



「青葉 Ym-House Renovation」  
壁付タイプのステンレスキッチンに、手元を隠し食事が可能なカウンターを現場施工している。背面収納は上下セパレート造作タイプの収納棚で、ルーバーも合わせてカラーコーディネートしている。

■特集 "キッチン+収納" 現代では住宅の中心とも言えるキッチン。使い勝手に直結するキッチン回りと収納を、設計事例からご紹介いたします。

>> 東京のクリエイティブカ

こんにちは。小野です！先月末に姉に会いに東京に行ってきました。その日は調度すがすがしい晴天で、東京マラソンの日でした。秋田よりも暖かかったのですが、夜はまだコートが手放せませんでしたね。弾丸日程で行ったので特に予定も考えてなかったのですが、急遽姉の職場の方とも合流して一緒にご飯を食べることになりました。私は一卵性の双子です。自分たちは似ていると全然思わないのですが、周りの方々から見ればそっくりで物珍しい様です(笑)

私は初対面の方々ばかりだったので緊張でしたが、皆さんには初めて会った感じがしないと言われました。仕事途中にも関わらず、わざわざ会いに来て下さって嬉しかったです。違う環境で働くプロフェッショナルな方々とお話をできて凄く刺激になりましたし、楽しい時間でした。そして皆さんはお酒を飲んで仕事に戻られました・・・酔っている方がクリエイティブ力が発揮されるとのことです。東京は凄いなあと思った次第であります(笑) 写真は阿佐ヶ谷の飲み屋街を歩いている写真です。こういう提灯の明かりやネオンの感じが大好きな小野です(笑)



>>

coming soon...

>> 編集後記

みなさん、こんにちは。真冬の日々が去り、3月も中旬になろうとしています。ここ数日暖かな日も続き、路肩に積まれた雪もほぼ溶けましたが、週の後半にかけてチラチラと雪マークも出ています。三寒四温のこの時期、本当の春が待ち遠しいです。さて3月、何かと慌ただしい季節になります。と言ってもたいした慌ただしくも無いのですが・・・(笑) 我が家は、娘が社会人としてスタートを切ることになり、早くも研修が始まったようです。息子は何とか進級できたようですが、今年は進路を決める重要な年になりそうです。また事務所も退職したスタッフが替わり、新人スタッフが4月から仲間に加わります。何かと停滞感が漂う情勢ではありますが、気持ちも新たに設計に取り組んで行きたいと思っております。さて、間もなく5回目の3月11日になります。震災から丸5年ということで、総括的な評価が行われる年でもあります。建築界・建築家は復興に対して何を提案できたのか？土木工事のボリュームとスピードに、まちづくりやコミュニティなどの理想論は圧倒された感も否めません。ゼネコン主導になった新国立競技場しかり、建築家はこれら現実の状況を受け止め、検証と次回への備えが必要だと感じました。我々の将来にとって、とても大切なことですので。最後までお読みいただきましてありがとうございます。それでは次回もどうぞお楽しみに。